沖縄県の高校生におけるハイリスクな性行動について

高倉実[1]，和氣則江[1]，小林稔[2]，岸本梢[3]
[1]琉球大学医学部，[2]琉球大学教育学部，[3]琉球大学大学院保健学研究科

わが国における HIV/AIDS の発生動向は依然として増加傾向にあり，これらは主に性的接触によって拡大しつつあることや，これまでの大都市を中心とする流行が地方にも広がっていることが指摘されている。同様に，思春期における STD 感染者数も増加しており，これまで以上に若年層に対する予防対策が必要とされる。効果的な HIV/STD 予防プログラムを開発するためには，若者の危険な性行動のパターンや危険因子についての情報が必要不可欠となる。わが国の思春期のそれらについていくつかの調査が見られるものの，未だ不明確な部分が残されている。本研究では，沖縄県全域から選出した 25 県立高等学校の生徒 2,852 名を対象にリスク行動に関する質問紙調査を行い，高校生の性行動の実態を把握するとともに，コンドーム使用と他の危険な性行動との関連の詳細を明らかにした。

対象の約 1/4 が性交を経験しており，高学年，女子，両親と住んでいない者，学校をさぼる者，現在喫煙者，現在飲酒者ほど性交経験率が高かった。”最近の性交時にコンドームを使用しなかった”，”これまでに 4 人以上の性交相手がいる”，”最近の性交時にアルコールもしくは薬物を使用した”のいずれかに該当する者をハイリスク群とした場合，性交経験者のうち半数以上がハイリスク群に含まれた。ハイリスク群は両親と住んでいない者と現在飲酒者が多かった。コンドーム不使用は早い性交開始，複数の性交相手，性交時のアルコールもしくは薬物使用と有意に関連していた。本知見から，かなりの高校生が HIV/STD 感染に脆弱なハイリスク性行動をとっていることが明らかになり，性交開始を遅らせ，そして，安全な性行動をとらせるための重点的な予防介入が必要となるグループが示唆された。